



説教要旨 「大いなる光」

イザヤ書9章1～6節

紀元前733年。この時代に強国アッシリアが北イスラエル王国を侵略し占領しました。略奪され、滅びの危機に陥った当時のイスラエルの現実はまさしく「闇」でした。この闇の本当の恐ろしさは、罪が罪だとわからなくなることにあります。アッシリアに蹂躪され、踏みにじられ、国土は荒れ果ててゆきまです。そのような何の希望も見いだせない日々を過ごす中で、人々は神さまのことが信じられなくなったのです。

まさに真っ暗闇としか言いようのない状況のイスラエルに、預言者イザヤは表れ、闇の中を歩んでいる人々に語りかけるのです。

「闇の中に歩む民は大いなる光を見

死の陰の地にに住む者の上に、光が輝いた。」



(イザヤ9:1)

イザヤが預言する「光」は「平和の君」と呼ばれています。この光は、武力によって敵を打ち滅ぼし、勝利するのではなく、戦争そのものを打ち滅ぼすというのです。そのような本当の平和をもたらす“救い主”の誕生を暗闇を照らす光として預言したのです。無力な、弱い者たちが、虐げられ苦しんでいる闇の時代に、このひとりのみどりごは「わたしたちのために」生まれた、「わたしたちに」与えられた、のです。つまり、インマヌエルの喜び、神が私たちと共におられる喜びが与えられたのです。

真っ暗闇の中を歩むわたしたちを救い出すために、神さまは大きな決断を下されました。それが、「ひとりのみどりご」を私たちのために、地上に生まれさせることだったのです。この神さまの決断を最初に聞いたのが預言者イザヤです。イザヤは光を見ました。一人の男の子が光としてきて下さるのです。暗闇の中を歩む民はこの光によって救われるのです。

アドベント（待降節）は、この暗い世に、ただ一つの光として来てくださる神さまの独り子、イエス・キリストを待ち望む時です。その光がこの暗闇を照らし、わたしたちを目指す所へと導いてくださるのです。



(2018・12・16 説教者：稲垣真実)